

けんどう いつきゅうしん さ かいがつか こうしゅう しりょう  
剣道一級審査会学科講習資料

1. 「剣道の理念<sup>りねん</sup>」について書きなさい。
2. 剣道における「三とおりの礼<sup>れい</sup>」について説明しなさい。
3. 切り返し<sup>おこな</sup>を行う上で「気をつけること」について  
5項目以上<sup>こうもくいじょう</sup>書きなさい。
4. 剣道における「掛け声<sup>かごえ</sup>」の効用<sup>こうよう</sup>（ききめ）について  
書きなさい。
5. 「有効打突<sup>ゆうこうだつ</sup>の条件<sup>じょうけん</sup>」をあげ、簡単<sup>かんたん</sup>に説明しなさい。
6. 剣道における「間合<sup>まあい</sup>」について説明しなさい。

さんこうぶんけん  
【参考文献】

ぜんにつぼんけんどうれんめい けんどうがつかしんさ もんだいれい かいどうれい  
全日本剣道連盟『剣道学科審査の問題例と解答例』および  
いちぶ けんどうしどうようりょう ばつすい  
一部『剣道指導要領』より抜粋

## 1 「剣道の理念」について書きなさい。

剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である。

## 2 剣道における「三とおりの礼」について説明しなさい。

剣道における礼法には、立った姿勢でおじぎをする立礼と、正座の姿勢からおじぎをする座礼とがある。立礼には二とおりの作法があるが、いずれも真心をこめ、節度をもって折り目正しく行うようにする。

(1) 上体を約30度前傾して行う礼は、神前や上座、上席に対する礼法である。

(2) 上体を約15度前傾し、相手に注目して行う目礼は、試合や稽古の際の互いの礼法である。

座礼は、正座の姿勢から上体を前方に傾けつつ、同時に両手を「ハの字」の形にして床につけ、その中心に鼻先を向け、静かに頭をさげる。一呼吸程度おいてから両手を同時に床から離し、元の姿勢に戻る。

## 3 剣道における「切り返しを行う上で気をつけること」について5項目以上書きなさい。

(1) 立合いの間合では、姿勢、構え、竹刀の握り方などを正しくする。

(2) 初心の段階では、動作を大きく、正確に行う。

(3) 肩の余分な力を抜いて、柔軟に左右均等に打つ。

- (4) 連続<sup>さゆう</sup>左右面打ちの角度を45度ぐらいにする。
- (5) 正しい足さばきで行い、特に後退<sup>こうたい</sup>の際<sup>さい</sup>の引き足<sup>あゆ</sup>が歩み足にならない。
- (6) 振りかぶったときに左こぶしを必ず頭<sup>ず</sup>上<sup>じょう</sup>まであげる。打ちおろしたときには、左こぶしがさがり過ぎたりあがり過ぎない。
- (7) 左こぶしは常に正中線<sup>せいちゆうせん</sup>上<sup>じょう</sup>にある。
- (8) 息のつなぎ方は、正面を打ち、相手に接近<sup>せつしん</sup>したところで息を吸い、左右面を打ち終って間合<sup>まあひ</sup>をとり、正面を打ったところで息をつぐ。
- (9) 相手の竹刀のみを打ったり、空間<sup>くうかん</sup>を打ったりすることなく、伸び伸びと確実に左右面を打つ。
- (10) 頭<sup>かし</sup>や腰<sup>ひざ</sup>、膝<sup>ちようし</sup>などで調子<sup>てうし</sup>をとって体<sup>じよう</sup>の上下動<sup>げどう</sup>を大きくしない。
- (11) 正面打ちは、一足一刀<sup>いつそくいつとう</sup>の間合<sup>まあひ</sup>から正確に打つ。
- (12) 習熟<sup>しゅうじゆく</sup>するにつれて、旺盛<sup>おうせい</sup>な気力<sup>きりよく</sup>をもって息の続く限り一息で行い、体勢崩さずに連続左右面を打つようにする。

#### 4 剣道における「掛け声」の効用(ききめ)について書きなさい。

掛け声には、相手と攻め合う時に発声<sup>はっせい</sup>するものと、打突<sup>だとう</sup>の時に発声するものがあるが次のような効用(ききめ)がある。

- (1) 自分の気力<sup>きりよく</sup>を充実させる。
- (2) 相手を威圧<sup>いあつ</sup>(おどろかしおそれさせる)する。
- (3) 自分の力を集中<sup>しゆうちゆう</sup>して、より以上の勢<sup>はつ</sup>いと力を発揮<sup>はつき</sup>させる。
- (4) 気剣体<sup>きけんたい</sup>の一致<sup>いっち</sup>をはかり、打突を正確にさせる。

## 5 剣道における「有効打突の条件」について説明しなさい。

有効打突の条件は、充実した気勢、適正な姿勢をもって竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し残心あるものとする。

これを簡単に説明すれば、正しい姿勢で、元気よく、気合、竹刀、身体を一致させて、規定された面部、小手部、胴部および突き部を竹刀の物打ち部、または剣先で正しく打突し、打突後の相手に対する身構え、気構えをしっかりとることである。

## 6 剣道における「間合」について説明しなさい。

間合とは自分と相手との距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

### (1) 一足一刀の間合

剣道の基本となる間合で、一步踏み込めば相手を打突できる距離であり、一步退がれば相手の打突をかわすことのできる距離である。

### (2) 遠い間合 (遠間)

相手との距離が一足一刀の間合よりも遠い間合で、相手が打ち込んできて届かないが、同時に自分の打突も届かない距離である。

### (3) 近い間合 (近間)

相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打突が容易に届くかわりに、相手の打突も届く距離である。